技術・家庭科(家庭分野)学習指導案

日 時 平成 30 年 6 月 1 日 (金) 第1校時 対 象 年 4 組 3 4 0 人 指導者 教 諭 山 口 隼 人

1 内容及び題材名 A 家族・家庭と子どもの成長 「幼児の生活と遊び」

2 題材設定の理由

近年、少子高齢化の進行や社会の変化に伴って家族形態も多様化し、家庭生活は様々に変化してきている。特に、少子高齢化の進行はますます顕著になり、中学生が幼児とかかわる機会も極めて少なくなってきており、幼児の発達や生活、関わり方について学ぶ機会が減少している。幼児との触れ合いや学ぶ機会の減少は、親の育児不安とも関係し、さらに少子化へとつながる悪循環が生じているとも考えられる。このような中で、中学生が家族・家庭と子どもの成長に関する学習課題に取り組み、異世代である幼児を理解し、思いやりや豊かな心を育むことは意義深いことである。また、人の一生の中で中学生としての位置づけを考えながら、人間の成長や発達と、幼児および中学生である自分と家族・家庭や社会との深い関わりを認識することは、大変重要なことである。

「A 家族・家庭と子どもの成長」では、幼児との触れ合いや家族・家庭に関する実践的・体験的な学習活動を通して、幼児に関心をもたせるとともに、自分の成長や家族・家庭、幼児の発達と生活について関心と理解を深め、家族や幼児に主体的に関わることができるようにし、これからの生活を展望して、課題をもって家庭生活をよりよくしようとする能力と態度を育てることをねらいとしている。

生徒は、半数が一人っ子、もしくは末っ子である。また、核家族の形態の家庭がほとんどであり、家族内に幼児がいる生徒もごくわずかである。そのため、幼児との交流の機会は極めて少ない状況にある。保育に関する学習に関心をもっている生徒も少なくはないが、苦手意識をもっている生徒も4割ほどいるのが現状である。指導に当たっては、生徒がより主体的に学習に取り組めるように、題材の始めに「すっどカード」を用いて学習に見通しをもたせたい。題材の前半部分では幼児の身体の発育や心の発達等、幼児の生活についての基礎的・基本的な知識を習得させたい。それらを踏まえて、題材の後半部分では、幼稚園訪問を見通して、目的や対象に合った幼児の遊び道具づくりを行わせる。題材の前半や他教科等で習得した知識を活用し、生活の営みに係る見方・考え方を働かせながら、どのような遊び道具が適しているか、課題の解決に向けて構想を探究させることにより深い学びにつなげたい。終末は実際の幼稚園訪問を経て、幼児への関心を高めるとともに、そこでの学びを振り返らせ、実践を評価・改善し、幼児の生活をよりよくするために新たな課題に主体的に取り組む態度を育てられるよう指導したい。

以上のことから、実践的・体験的な学習活動を充実させながら、習得した知識や技能を活用し、進んで生活を工夫し、創造する能力と実践的な態度を育成できるように本題材を設定した。

3 題材の指導目標

- (1) 幼児の生活と家族について関心をもって学習活動に取り組ませ、家族又は幼児の生活をよりよくするために実践しようとする態度を育てる。
- (2) 幼児の生活と家族について課題を見付けさせ、その解決を目指して自分なりに工夫し創造できるようにさせる。
- (3) 幼児の生活と家族に関する基礎的・基本的な技術を身に付けさせる。
- (4) 幼児の生活と家族について理解させ、基礎的・基本的な知識を身に付けさせる。

4 題材の評価規準と指導計画 (1) 評価規準

ア 生活や技術への	イ 生活を工夫し	ウ 生活の技能	エ 生活や技術について
関心・意欲・態度	創造する能力		の知識・理解
① 自分の成長の振り	① 幼児の心身の発達	① 幼児の遊びや幼	① 幼児の身体の発育や
返りを通して, 幼児の	に応じた遊び道具や	児の発達と家族と	運動の機能の特徴につ
成長に関心をもって	遊び方について考え,	の関わりなどにつ	いて理解している。
いる。	工夫している。	いて, 観点に基づい	② 幼児の言語,情緒,社
② 幼児の生活をより	② 幼児の生活につい	て観察し,整理する	会性の発達の特徴につ
よくすることに関心	て課題を見付け,その	ことができる。	いて理解している。
をもち,遊び道具の製	解決を目指して遊び		③ 基本的な信頼関係や
作に取り組もうとし	道具の製作の計画を		生活習慣の形成の重要
ている。	自分なりに工夫して		性とそれを支える家族
③ 幼児の生活をより	いる。		の役割について理解し
よくすることに関心	③ 遊び道具の製作の		ている。
をもち, 幼児と触れ合	成果と課題について		④ 幼児にとっての遊び
う活動の計画に取り	まとめたり、発表した		の意義について理解し
組もうとしている。	りしている。		ている。
④ 幼児と触れ合う活	④ 幼児の心身の発達		⑤ 幼児の遊びを支える
動などを通して,幼児	に応じた関わり方に		環境について理解して
に関心をもち, 適切に	ついて, 観察したこと		いる。
関わろうとしている。	を生かして、よりよい		⑥ 幼児の発達を支える
	遊び道具や遊び方に		地域の役割について理
	ついて考え, 工夫して		解している。
	いる。		

(2) 指導計画 (全 14 時間)

 指導計画 (全 14 時間) 			
学習内容	時数	主な指導内容	評価規準
わたしの成長をたどる	1	自分の成長を振り返らせ、幼児期の心身の発達に 関心をもたせる。	アー①
幼児の体の発達	1	幼児の体の発達の特徴を理解させる。	エー①
幼児の心の発達	1	幼児の心の発達の特徴を理解させる。	エー②
幼児の心身の発達と 家族の役割	1	幼児の生活の特徴を理解させ、家族の役割・関わり方について考えさせる。	エー③
幼児の遊びと発達	1	幼児の遊びの特徴に気づかせるとともに,幼児の 遊びの意義について理解させる。	エー④
幼児の遊びを支える	1	幼児の遊び道具の役割や遊びを支える環境につい て考えさせる。	エー⑤
	1 (本時)	遊び道具の評価を通して,幼児の発達段階に応じ た遊び道具や遊び方について工夫している。	√ -①
幼児の遊びを支えるもの の構想 (生活の課題と実践)	1	身の周りにあるものを使って、幼児と一緒に遊べる遊び道具の製作について構想を練らせ、製作の計画を立てさせる。	√ −②
幼児の遊びを支えるもの の製作 (生活の課題と実践)	夏季 休業	身の周りにあるものを使って、幼児と一緒に遊べる遊び道具を製作させる。	アー②
製作した遊び道具の報告 (生活の課題と実践)	1	製作した遊び道具について報告させて, 互いの遊 び道具を評価させる。	イー③
子どもの成長と地域	1	子どもの成長と地域との関わりについて理解させ る。	エー⑥
触れ合い体験の前に	1	幼児と触れ合うための計画を立てさせる。	アー③
触れ合い体験をする (幼稚園訪問)	2	幼児との関わり方を工夫しながら,触れ合い体験 をさせる。	アー④ ウー①
触れ合い体験をふり返る	1	触れ合い体験を振り返らせ、製作した遊び道具の 評価・改善を図らせる。	イー④

5 生徒の実態(実施:平成30年4月20日 対象:3年4組40人)

(1) あなたは保育の学習に興味がありますか。



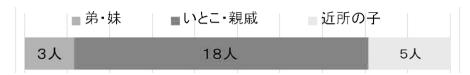
(2) あなたは子どもと触れ合うことが好きですか。



(3) 中学生になってから、幼児と触れ合った経験がありますか。



(4) (3)で「はい」と答えた人は、その幼児との関係はどのような関係ですか。



(5) (3)で「はい」と答えた人は、何回程度その経験がありますか。



(6) 幼児と遊ぶ上で大切なことが何か分かりますか。



(7) 幼稚園訪問で幼児と遊ぶときに、適切な関わり方ができる自信がありますか。



く考 察>

アンケートの結果から、保育の学習に興味が「ある」生徒が25人、興味が「ない」生徒が15人で若干興味のある生徒が多かった。同様に、子どもと触れ合うことが「好き」「どちらかと言えば好き」な生徒も「あまり好きではない」「好きではない」生徒と比べて、わずかに多いという結果が得られたが、保育の学習に興味が「ない」生徒や子どもと触れ合うことに苦手意識を感じている生徒も少なくないことが分かる。幼児との交流経験については、中学生になってから交流の経験が「ある」生徒が26人、「ない」生徒が14人であった。また、交流経験のある生徒の交流対象者を見てみると、「弟・妹」が3人、「いとこ・親戚」が18人と、比較的近い関係の幼児との交流が見られた。更に交流の回数についてみてみると、26人中23人は10回未満の経験にとどまった。交流経験については、限られた関係の中での交流であり、10回以上の交流がある生徒もわずかに5人であることから、多くの生徒が幼児とのコミュニケーションの経験や機会が限定的であることが分かる。幼稚園訪問で幼児と遊ぶときに、適切な関わり方ができる自信の「ない」「あまりない」生徒が多いことも、こういった背景が関係していることが予想できる。

そうした中で、幼稚園訪問を見据えた題材の学習を通して、幼児への関心を高めるとともに、適切に関わるうとする態度やそのための知識及び技能を習得させる必要性を感じる。

6 本時の実際(6/14)

(1) 主 題 幼児の遊びを支える

(2) 指導目標

遊び道具の評価を通して、幼児の心身の発達に応じたよりよい遊び道具や遊び方について考えさせ、幼児にとって望ましい遊び道具を工夫させる。

(3) 目標行動

幼児の心身の発達に応じた遊び道具や遊び方において必要な要素を考え、そのチェックポイントを述べる ことができるとともに、それらを踏まえた遊び道具の構想を考えることができる。

(4) 評 価

	•			
	ア 生活や技術への 関心・意欲・態度	イ 生活を工夫し 創造する能力	ウ 生活の技能	エ 生活や技術についての知識・理解
評価規準	14 9 12/19/1 12/19/2	幼児の心身の発達に応じ た遊び道具や遊び方につい て考え、工夫している。		
おおむね達成している		幼児の心身の発達に応じた遊び道具や遊び方において必要な要素を考え、そのチェックポイントを述べることができるとともに、それらを踏まえた遊び道具の構想を考えることができる。		

(5) 授業設計の視点

ア 社会とのつながりを意識させる教材・教具の工夫

授業では学習と日常生活や家庭生活とのつながりを意識させる工夫として、企業が実際に作っている遊び道具の紹介を補充指導の場面に取り入れた。実際に市販されているものの観察から、解決方法について推測させ、より質の高い課題の共有化を図れると考えた。生徒の中に問題意識をほりおこし、家庭と社会とのつながりや技術と社会・環境との関わりの中から課題を見いだすことができるようにした。

イ 最適な解決策を協働して追究させる場の設定

最適な解決策を追究させるための工夫として、「技術・家庭科相互練り上げ7か条」によって他者の考えにも耳を傾けさせ、班活動の活性化を図った。「自己追究」場面において、課題解決に向けた要素を明確にした後に、「相互練り上げ」場面において、グループでチェックポイントをつくる場面を設定した。生徒一人一人が活動に対して自分の意見をもって参加できるよう工夫した。また、問題解決へ向けて練り上げていく視点とプロセスを明確にするために、リーダー育成を充実させるとともに、学習の中でもリーダーを集める場面を設定した。さらに、深化指導として他教科の資料を提示し、より質の高い最適な解決策を追究できるようにした。このような指導の工夫を図ることで、能動性、独自性を発揮しながら、生徒同士が知識と技能を互いに活用しながら、協働的な活動を充実させることができるようにした。

(6) 本時の展開

(0	,	平吋の展用				
過		学習の流れ	時 間	学習活動	指導上の留意点	教材・教具
導/	ほりおこし	はじめ 学習の振り返り 1	5	1 これまでの学習を振り返り、本時に学びたいことを考える。	 すっどカードにより学びを振り 返らせるとともに、本時の学習に関 する疑問を想起させる。 (実践編2 p142) 	1 すっどカード
		わかったか 2 補 3		2 考えたことを発表する。	2 これまでの学びや疑問を全体で 共有させる。 3 幼稚園訪問における遊び道具の 製作に向けて意欲を高めさせる。	
	課題の共	学習課題の設定 4		4 学習課題を設定する。	5 生徒の発言から学習課題を導き 出す。6 学習課題を設定できない生徒に	5 ワークシート すっどカード
	有化	できたか 5		幼児にとって望ましい遊びi イントを考えればよいだろう?	は、補足説明を行う。 首具を製作するにはどのようなポ か。	
	自コ	要素を考える 7 わかったか 8 相 12 をまかが 10 できたか 11	15	7 遊び道具にとって大切な要素を 考える。	7 教師手づくりの遊び道具を観察 させて、問題点に気付かせる中で、 遊び道具にとって大切な要素に気 付かせる。	7 ワークシート
展開	己追究			8 考えた要素について発表し合い, 全体で共有し合う。 ○ 安全性が優れている。 ○ 幼児の身体や心の発達段階に適している。 ○ 幼児の成長やコミュニケーションを促す。	8 全体で共有させることにより、よりよい遊び道具を製作するために必要な要素に気付かせる。	8 ワークシート
					9 市販の遊び道具や幼児が実際に 遊び道具で遊ぶ様子の映像を観察 させて、大切な要素に気付かせる。	9 市販の遊び道具 PC・TV ワークシート
				(5)-ア 社会とのつながりを意識させる 10 考えた要素について,遊び道具の チェック(評価)ポイントを考える。 (5)-イ 最適な解決策を協働して追究	10 これまでの学びや経験を踏まえ て,根拠を明確に示させる。	10 相互練り上げ7か条 (実践編 1 p97) ワークシート
	相写			11 完成したチェックポイントを発表し、考えを学級全体で共有する。	11 完成したチェックポイントを共 有させ、自分の班のチェックポイン トと比較させる。	11 ワークシート
	互練り上				12 市販の遊び道具を紹介し,これま での学びを含めて根拠をもってチ ェックポイントを示すように促す。	12 川敷の近の追兵
	げ	★ 補 15		13 教師の手作り遊び道具をよりよいものへと改善する。	13 チェックポイントを参考にさせながら、要素を満たす遊び道具へと改善させる。14 新たに気づいたこと等は、色を変	13 ワークシート 14 ワークシート
		遊び道具の 改善 13	15	14 ワークシートにまとめる。	14 利にに双ういたこと寺は、巴を変えて加筆・修正させる。 (実践編2 p143) 15 遊び道具の製作に繋がる各教科	14 ソークシート 15 ワークシート
	自己	できたか 14			での学びを紹介したり,リーダーを 集合させ,外部知を入れたりして, よりよい改善策を追究させる。 (実践編1 p97)	他教科の資料 相互練り上げ7か条 (実践編1 p97)
	解決			(5)-イ 最適な解決策を協働して追究		
終末	次	本時のまとめ 16		16 本時のまとめを行い,幼児にとって望ましい遊び道具のポイントを確認する。 ・安全面	16 本時の学習を振り返り、幼稚園訪問に向けた遊び道具の製作で配慮すべきことを確認する。	16 ワークシート すっどカード
	自己	次時の予告 17	5	・心身の発達段階・成長やコミュニケーションの促進	ェックポイントを踏まえて考えればよい。	,
	評価	おわり		17 次時の予告を聞く。	17 幼稚園訪問や遊び道具の製作に 向けて、意欲を高めさせるととも に、よりよい改善策を求め続けるよ うに伝える。	

	身に付ける力や態度				
	コミュニケーションへの関心・意欲・態度	外国語表現の能力	外国語理解の能力	言語や文化についての知識・理解	
	□ 積極的に環境問題について話そう I としている。	□ 教科書本文や環境問題に関する意見文を,音 声の特徴に注意しながら読むことができる。 I	□ 教科書本文や他者の環境問題に関する意 見文の内容を,正確に理解することができ る。	活用している。	
3 rd Grade Program 3 The 5 Rs to Save the Earth	□ 相手に分かりやすく説明するため に工夫したり資料を用いたりして いる。	□ 環境問題に関する意見文において、キーワードなどを用いて考えを簡潔に表現したり、自身の身近な経験を基に考えを伝えたりすることができる。	□ 教科書本文や他者の環境問題に関する意 見文の内容を、自身の実際の生活に関連さ せたり、既有の知識を活用したりしなが ら、適切に理解することができる。	用している。	
	□ 聞き手を意識し、共感を促しながら環境問題について説明しようとしている。	E 環境問題に関するプレゼンテーションを行う際に、Self-Us-Nowの要素を加えたり、客観的な資料を用いたりしながら発表することができる。	□ 環境問題に関する意見文の内容から、実生活に生かすことができることを理解し、 提案することができる。	E 環境問題に関するプレゼンテーションを 行う際に、教科書以外の知識や情報を活用 しながら発表することができる。	
	Large Task:大直高級中学の生	徒と環境問題に関する考えを発表し合おう	う。(活用例)		
	Hi, everyone. I like skiing. When I watched So	ochi Olympic games on TV, I was so excited and impressed wit		l our children enjoy such a great competition? Global	
歌中とりサとの路上のゴミに関する対話をきっかけに、二人は環境に関する対話をきっかけに、二人は環境に関する考えを深め、環境保全のための3Rについて話をする。その後、リサはさらに考えをひろげ、その4つ目のRについて、考えを述べる。その翌日、武史は自分の経験をもとに、5つ目のRについて考えをまとめたEメールをリサに送る。 でいて考えをまとめたEメールをリサに送る。 での彼のでは、これを明からに考えをひろが、その4つ目のRについて、おりいて考えをまとめたEメールをリサに送る。 では、これを明からに考えをいた。 では、これを明からに考えをいた。 では、これを明からに考えをいた。 では、これを明からに考えをいた。 では、これを明からに考えをいた。 では、これを明からに表えをいた。 では、これを明からに表えをいた。 では、これを明からに表えをいた。 では、これを明からに表えをいた。 では、これを明からに表えをいた。 では、これを明からに表えをいた。 では、これに関する対話をきっかけに、二人は環境に関する対話をきっかけに、二人は環境に関する対話をきっかけに、二人は環境に関する対話をきっかけに、二人は環境に関する対話をきっかけに、二人は環境に関する対話をきっかけに、二人は環境に関する対話をきっかけに、二人は環境に関する対話をきっかけに、二人は環境に関する対話をきっかけに、二人は環境に関する対話をきっかけに、二人は環境に関する対話をきっかけに、二人は環境に関する対話をきっかけに、二人は環境に関する対話をきっかけに、二人は環境に関する対話をきっかけに、二人は環境に関する対話をきっかけに、二人は環境に関する対話をきっかけに、二人は環境に関する対話をきっかけに、二人は環境に関する対話をきっかけに、二人は環境に関する対話をきっかけに、二人は環境に関する対話をきっかけに、二人はよぬのは、「ないので、とこれを関するといのではいないので、とこれを関するといいでは、これを明れるといいでは、これを明れるといいでは、これを明れるといいでは、これを明れるといいでは、これを明れるといいでは、これを明れるといいでは、これを明れるといいでは、これを明れるといいでは、これを明れるといいでは、これを明れるといいでは、これを明れるといいでは、これを明れるといいでは、これを明れるといいないでは、これを明れるといいでは、これを明れるといいでは、これを明れるといいでは、これを明れるといいでは、これを明れるといいでは、これを明れるといいは、これを明れるといいでは、これを明れるといいでは、これを明れるといいは、これを明れるといいは、これを明れるといいは、これを明れるといいないでは、これを明れるといいは、これを明れるといいは、これを明れるといいは、これを明れるといいは、これを明れるといいは、これを明れるといいは、これを明れるといいは、これを明れるといいは、これを明れるといいないは、これを明れるといいないは、これを明れるといいは、これを明れるといいないは、これを明れるといいないは、これを明れるといいないは、これを明れるといいは、これを明れるといいないは、これを明れるといいないは、これを明れるといいは、これを明れるといいないないないは、これを明れるといいないは、これを明れるといいないないないは、これを明れるといいないないないないは、これを明れるといいないないないないないないないないないないないないないないないないないない					
○ [small task] 単元のあらましを理解しよう			, , , ,	•	
 Program 3 のスキーマ形成 large task の設定「大直高級中学の生徒と環境問題に関する考えを発表し合おう」 取り上げたい環境に関する話題の決定 モデルとなるスピーチ動画の視聴 ICE ルーブリックシートに基づいてモデル文から身に付けるべき力等の把握と家庭で取り組む課題の確認 [small task] 環境のために普段心掛けていることを発表しよう [It + be 動詞+~(+ for ~)+ to 不定詞]を用いた文構造の形,意味,用法の理解と表現練習 Section 1 の内容理解と音読練習 モデルとなるスピーチ動画の視聴 環境に関する考えの発表 [small task] 4つ目の R を考えよう [主語+動詞+ how (など) to 不定詞]を用いた文構造の形,意味,用法の理解と表現練習 Section 2 の内容理解と音読練習 教科書本文やその他の資料を基にした4つ目のRの発表 [small task] 環境について相手に分かりやすく自分の考	Speaking (やりとり) 双方向 □ 積極的に話している □ 適切な声量で話している □ アイコンタクトを意識している □ 相手の話に相づちを打っている □ 適切に質問を返している □ 話をつなぐことができている □ 即興で伝え合っている □ 考えたことや感じたこと, その由などを伝え合っている	る □ イントネーション・強弱を意識している □ 図や表,ジェスチャーを用いて分かりやすく話している	│ □ 10文以上のまとまりのある文章を	根拠を示すことができている 生・語順・スペリング)に書いている き書いている 拠や具体-主題の言い換えや要約]など きまとめることができている はなどを、書いている	
4	Listening		Reading		